



記者手帳

のは地球環境問題への対応で、処理業界の社会的地位をいかに向上させていくかだ。社長は「産業界

オマース燃料を生産する。ユーザーは化石燃料の代替で発電・熱供給用にチップ対策として認めてもらえない。逆に破砕時のCO₂排出がマイナスにカウントされるだけ

社長は「処理業界は石油の代わりに都市鉱山からバイオマ燃料を掘り出し、利用できるように破砕している。この行為は、明確に社会で認知されるべきだ」と語る。

バイオマス生産もCO₂削減で評価を

先日、処理業界の将来を真剣に考え抜いている中間処理業者の社長と、懇談する機会があった。社長はこれまでも世の中における静脈産業としての処理業界の位置付け、技術革新に基づく中間処理施設の進歩などを説き続けてきた。

最近、考えている

は処理業者が生産する(木材、紙くず、有機性汚泥などの)バイオマスをエネルギーに使うことでCO₂の削減につなげている。しかし、燃料チップなどのバイオ

「だ」と言う。例えば、排出事業者から引き取った廃木材を破砕施設に持ち込み、燃料チップを生産し、製紙工場などエンドユーザーにチップを出荷する

達し、燃料チップを生産しなければユーザーのCO₂削減は実現しない。しかし、今のところ、国や産業界ではその生産行為にスポットを当てない。社会的に評価を定着させるためにも、それを支える行為に光を当てていくのは重要だ。(電)